

＜第1回兵庫県海岸保全基本計画変更技術検討部会 議事要旨＞

日 時：令和6年10月29日（火）11：00～12：00

場 所：ひょうご女性交流館 501＜WEB 会議併用＞

出席委員：森委員(部会長)・内山委員・柴田委員(web)・平山委員

【概要】

大阪湾沿岸および但馬沿岸における気候変動の影響を踏まえた計画外力の設定、部会の検討スケジュール等について説明し、各委員に意見を求めた。

【議事内容】

●部会長の選任について

森委員が部会長に選任された。

●大阪湾沿岸の気候変動の影響を踏まえた計画外力の設定について

計画外力の設定について説明し、検討スケジュールの説明を行った。今後、委員からの意見を踏まえ検討する。

●但馬沿岸の気候変動の影響を踏まえた計画外力の設定について

計画外力の設定について説明し、検討スケジュールの説明を行った。今後、委員からの意見を踏まえ検討する。

【主な意見】

＜大阪湾沿岸＞

●河川の影響を考慮した複合災害について

【委員】

降雨による河川の影響（高潮と洪水の複合災害）は考慮するのか。

また、大阪湾沿岸での土砂管理・漂砂についてはどうか。

【事務局】

今回の変更では、河川の影響および土砂管理・漂砂は考慮しない方向である。

【委員】

現時点では複合災害についての科学的知見が不足しているため、今回の計画変更に盛り込むことは難しい。

●想定台風の設定について

【委員】

検討ケースに規模をそのままとした台風 21 号が含まれているのは、伊勢湾台風規模との比較対象として認識することで良いか。

【事務局】

そのとおり。また、シミュレーションの再現性確認の対象としている。

●沖波条件の記載について

【委員】

大阪湾内における沖波推算地点のうち、水深が波長の 1/2 より浅い箇所において、海底地形による波の変形を考慮して推算された沖波は、学術的には「準沖波」と記載することが適切であるため確認すること。

【事務局】

ご指摘を踏まえ資料を修正する。

●4℃上昇シナリオでの検討成果の活用方法について

【委員】

2℃上昇シナリオを前提として検討を進めることで問題ないが、4℃上昇シナリオの扱いについて確認したい。

【事務局】

2℃上昇シナリオに基づいて計画の変更を行うが、4℃上昇の結果もあわせて確認する方針で進めることとしている。

●気候変動の影響を考慮した台風モデルの妥当性確認手法について

【委員】

A-1 の手法により検討した結果について、B-1 の手法で妥当性を確認する方向性で良いか。

【事務局】

d4PDF 等で確認する。

●2℃上昇シナリオにおける台風の強大化と海面上昇についての留意点

【委員】

2℃上昇は、2050 年頃に CO₂ 削減により気温が安定することを前提としている。そのため、気温の変化に影響されやすい台風の強くなるピークは、2100 年でなく 2050 年頃と考えられる。一方、海面は、2100 年までゆっくり上昇を続けると考えられる。2℃上昇で想定しているそれぞれの時間的変化の予測結果を資料に追加すること。

【事務局】

資料に追加する。

<但馬沿岸>

●台風以外の低気圧の考慮について

【委員】

日本海側であるため、台風以外の低気圧も検討されているとの理解で良いか。

【事務局】

低気圧も含めて資料を分析している。

●高潮推算におけるウェーブセットアップの影響について

【委員】

但馬沿岸に関しては顕著な湾もないため、吹き寄せより吸い上げの影響が大きいと思われるが、波が砕けることによるウェーブセットアップの影響は高潮推算で考慮されるか。

【事務局】

ラジエーションストレスによる水位上昇を考慮することとしている。

●沖波条件の記載について

【委員】

大阪湾沿岸の場合と同様に、水深が波長の 1/2 より浅い箇所において、海底地形による波の変形を考慮して推算された沖波は、学術的には「準沖波」と記載することが適切であるため確認すること。

【事務局】

ご指摘を踏まえ資料を修正する。

●気候変動の影響を考慮した台風モデルの妥当性確認手法について

【委員】

A-1 の手法により検討した結果について、大阪湾沿岸と同様に B-1 の手法で妥当性を確認する方向性で良いか。

【事務局】

d4PDF 等で確認する。

【委員】

大阪湾沿岸と同じように、但馬沿岸の資料にも、検討の妥当性を確認する考え方を記載できるとよい。

●許容越波流量の設定について

【委員】

背後地の利用状況に応じて越波の許容値を設定する方針であるが、どのように利用状況を評価するのか。

【事務局】

現在の計画の中でも場所によって許容値を変えている。既往の設定も参考にしながら、背後地の利用状況を踏まえ設定していくよう考えている。

●その他

【委員】

朔望平均満潮位の現行計画値が資料に記載されていないのは、現行計画が既往最高潮位をベースとしているためと思うが、最終的には、現行計画値との比較ができるように整理できるとよい。

【委員】

観測データを基に朔望平均満潮位を見直して T.P.+0.69m とされているが、0.1m 丸めにせず、1cm 単位の記載のまま進めることで良いか確認のこと。

【委員】

兵庫県では特徴の異なる4沿岸の計画を検討するため、可能であれば、各沿岸における過去の高潮・高波による被災事例について整理のこと（大阪湾沿岸も同様）。